

小学部 第3・4・5学年 生活単元学習 学習指導案

日 時：令和5年11月6日（月）

3・4校時（10:40～12:00）

場 所：小学部4・5年生、2・3年生教室

授業者：大澤 安希(T1)、泉 薫(T2)

宇佐美 朝子(T3)、佐々木 和音(T4)

1 単元名 みどりのうどんやさん3～うどんやさんをひらこう～

2 目 標

(1) 自分の係や、必要なものが分かり、友達と協力してうどんやうどんやさんに必要なものを作る。

【知・技】【思・判・表】

(2) うどんやさんを開くことや、小学部の先生方にうどんを振る舞うことに期待感をもって自分から活動する。
【学】

3 児童と単元

(1) 児童について

本学習集団は、小学部3～5年生、男子5名、女子2名の計7名である。簡単な指示を聞いて行動できる児童もいるが、個別での指示や見守りが必要な児童がほとんどである。コミュニケーション面では、発語がほとんどなかったり、どのように話したらよいか分からず、言葉に詰まってしまったりする児童が多い。また、初めての活動に戸惑い、教師の促しを待ったり、活動に見通しがもてず、怒りを表現したりする児童もいる。経験のある活動でも自信がもてず、友達の様子をうかがったり、言葉掛けがあるまで行動に移すことが難しかったりする。これまでは、教師の指示を聞いて学習活動を進めることがほとんどで、一人で活動を進めたり、友達とペアで活動を進めたりする経験が少ない。

(2) 単元について

本学習集団は、スイートポテトやポテトチップス、おにぎりなどの調理活動を通して、必要な道具を知って準備をしたり、手順どおりに調理をしたりする経験をしてきている。また、小麦粉粘土での感触遊びの経験もあり、ほとんどの児童が小麦粉の感触を楽しみながらこねたり、好きな形を作ったりして楽しんで活動していた。これまでは、自分が楽しいと感じることで満足感や達成感を得ていたが、身近なメニューのうどんづくりを行う中で、自分で楽しむだけでなく、身近な人の「おいしい」「作ってくれてありがとう」などの感想を聞くことで、満足感や達成感を得ることをねらいとして単元を設定した。

前単元「みどりのうどんやさん2～おいしいうどんをつくろう～」では、うどんの作り方や必要な道具を知り、うどんを作ったり、学部職員にうどんを振る舞ったりした。児童一人一人が手順表を手掛かりに、道具を準備してうどんづくりの全工程を行うことができた。また、うどんを食べることや、学部職員にうどんを振る舞うことを楽しみにして、うどんづくりをするようになった。うどんを振る舞った職員から「おいしい」「また食べたい」という感想をもらい、児童から「また作りたい」などと意欲的な言葉が出てきている。

本単元「みどりのうどんやさん3～うどんやさんをひらこう～」では、工程を分担し、友達と関わりながら協力してうどんや、うどんやさんに必要な看板等を作り、単元の最後に開店して小学部職員に振る舞う。これまでは各自でうどんづくりを行ってきたが、工程を分担することで、開店するために友達と協力することや、全員で力を合わせてうどんを作る意識をもつことができると考える。また、なじみのある小学部職員向けに開店し、認められる経験をすることで、うどんづくりに自信をもったり、自分から作り進めたりすることができると考え、本単元を設定した。

(3) 指導について（児童生徒の「主体的に学びに向かう姿」を引き出す工夫）

- ・うどんづくりに意欲をもてるように、「みどりのうどん屋さん」を開き、学部職員にうどんを振る舞う時間を設定する。⑥
- ・使う道具が分かって自分で道具を準備するために、準備する道具の写真を見せたり、係ごとの道具置き場を決め、動線がぶつからないような配置にしたりする。③
- ・自分でうどんづくりを進めたり、友達に言葉を掛けたりできるように、次に何をしたらよいか確認するための順番表を準備する。③、⑥
- ・ペアやグループに分け、誰と言葉を掛け合いながら進めればいいのか分かりやすくする。また、交代までの回数や取り組む時間を決め、やり取りをするタイミングを分かりやすくする。⑥

※丸数字は関連する本校の「主体的に学びに向かう姿」最終ページ参照

4 指導計画（総時数29時間 本時6・7/29）

小単元名 ・主な学習活動	時数	目標	扱う教科の内容
<p><前単元> みどりのうどん屋さん2 ～おいしいうどんをつくろう～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんの作り方や、必要な道具が分かり、うどんを作ったり、食べたりする。 ・学部職員にうどんを振る舞う。 	18	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具や、うどんの作り方が分かり、自分で準備しながら作る。 【知・技】【思・判・表】 ・うどんを食べることや、学部職員に振る舞うことに期待感をもって活動する。【学】 	国語：A 聞くこと 話すこと 生活：カ 役割 キ 手伝い・仕事 ケ きまり
<p><本単元> みどりのうどん屋さん3 ～うどんやさんをひらこう～</p> <p>(1) みんなでうどんをつくろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工程を分担して、ペアの友達と協力してうどんを作る。 	本時 6・7 /11	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の係や必要なものが分かって準備をしてうどんづくりに取り組む。 【知・技】 ・友達と身振りや発声、言葉でやり取りをしながら活動する。 【思・判・表】 【学】 	国語：A 聞くこと 話すこと 生活：カ 役割 キ 手伝い・仕事
<p>(2) おみせをつくろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店に必要な看板等を作る。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・看板等のお店に必要なものを、友達と協力して作る。【知・技】 	国語：A 聞くこと 話すこと B 書くこと 生活：カ 役割 図画工作：A 表現
<p>(3) おみせやさんのれんしゅうをしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師を相手に、うどんを振る舞う練習をする。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の役割が分かり、うどんを振る舞う準備をしたり、実際に振る舞ったりする。 【知・技】【思・判・表】 	国語：A 聞くこと 話すこと 生活：オ 人との関わり カ 役割
<p>(4) みどりのうどんやさんをひらこう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりのうどんやさんを開き、学部職員にうどんを振る舞う。 ・単元の振り返りをする。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割が分かり、うどんを振る舞う準備をして、お店を開いたり、うどんを振る舞ったりする。 【知・技】【思・判・表】 ・先生方が喜んでいてことを知り、達成感を味わったり、次の開店でやってみたいことを話したりする。【学】 	国語：A 聞くこと 話すこと 生活：カ 役割

<p><次単元> みどりのうどん屋さん4 ～みどりのうどん屋さんへ ようこそ！～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店作りをしたり、うどんさんでの会話の練習をしたりする。 ・保護者を招待して「みどりのうどん屋さん」を開店する。 	26	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割が分かり、友達や教師と一緒にうどんづくりをしたり、友達とやり取りしながらうどんを作ったりする。【知・技】【思・判・表】 ・お店を開き、保護者を招待してうどんを振る舞うことで、達成感を得る。【学】 	<p>国語：A 聞くこと 話すこと 生活：オ 人との関わり カ 役割 キ 手伝い・仕事 図画工作：A 表現</p>
---	----	--	---

5 本時の計画

(1) 全体の目標

- ・自分の係や必要な道具、材料が分かり、準備をしてうどんづくりに取り組む。【知・技】
- ・同じ係の友達と身振りや言葉でやり取りをしながら活動する。【思・判・表】【学】

(2) 個別の実態と本時の目標

係	児童名	実 態	本時の目標	手立て
生地をこねる・つゆを作る	A	<ul style="list-style-type: none"> ・うどんづくりに必要な道具や工程が分かり、自分から活動に取り掛かることができる。 ・つゆづくりをするときは、一緒に活動する友達に「〇〇さん、次はこれだよ」などと言葉を掛けるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマーを見てこねる残り時間をペアの友達に教えたりしながら活動を進める。 ・ペアの友達の様子を見て「次は〇〇をやろう」などと言葉を掛けながら取り組む。⑥ 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の活動に移ることができるように順番表を準備する。 ・友達に自分から言葉を掛けられるように、タイマーを操作したり、つゆを作る容器を交換したりする場面を設定する。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で作ったうどんを食べることや、得意な小麦粉をこねる活動が学習への意欲につながっている。 ・容器の色テープを見て、線までつゆを入れることができる。 ・一つの工程が終わっても、次の工程に移ることが難しく、教師の働き掛けが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアの友達の言葉掛けを聞いて一緒に活動する。 ・「〇〇さん、どうぞ」と友達の前方から言葉を掛けて生地を渡す。⑥ 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の活動に移れないときは、ペアの友達からの「次は〇〇だよ」の言葉掛けを手掛かりにする。友達からの言葉掛けに気が付けないときは、ペアの友達にもう一度言葉を掛けるように伝え、見守る。 ・生地を渡すときにどのように話したらいいか、教師と事前に練習する。
生地を踏む	C	<ul style="list-style-type: none"> ・写真カードや教師の言葉掛けを手掛かりにしてうどんづくりに参加し、活動内容が分かっている。 ・うどんを踏む写真を見てやるのが分かり、道具の準備に向かうようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生地を踏むために必要な道具が分かって、準備をする。 ・教師の10までのカウントを聞いて、自分から友達にタッチして交代をする。③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具の写真カードを提示したり、ペアの友達の様子を見るように伝えたりする。 ・10回踏んだことが分かるように、教師が足踏みに合わせて数える。
	D	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に見通しをもち始めている。 ・一つ一つの工程で、必要な道具の写真を見て持ってくるができるようになってきたり、簡単な言葉掛けを受け入れて、こねたりのばしたりすることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の様子を見たり、言葉掛けを聞いたりしながら、決められた回数、生地を踏む。 ・踏み終わったら、友達にタッチをして交代する。③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・踏むときに友達と向かい合うような配置にする。 ・踏み終わった後に動き出せない場合は、「10回踏めたね」「次は誰ですか?」と言葉を掛ける。

水をくむ・ねぎを切る・生地を伸ばす	E	<ul style="list-style-type: none"> ・うどんを食べることを楽しみに、うどんづくりに積極的に参加している。 ・うどんづくりの練習を重ねることで、必要な道具や工程に見通しをもって自分から動くことができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「準備はいいですか」「次はねぎを切ろう」とペアの友達に言葉を掛けてリードして活動を進める。⑥ 	<ul style="list-style-type: none"> ・順番表を提示し、マグネットを移動させて工程の順番を確認しながら活動するように事前に伝え、見守る。
	F	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉掛けを受けて道具を準備したり、友達のうどんづくりの様子を見て、積極的に取り組んだりするようになってきた。 ・工程の大まかな流れは理解しているが、一つ一つの工程を丁寧にやるのが難しい。小麦粉をまとめきれなかったり、生地を伸ばしきれなかったりするため、教師の支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・力を入れて生地を5回押し伸ばす。 ・ペアの友達と「どうぞ」「ありがとう」と言葉を掛け合いながら生地の受け渡しをする。③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・力が入る姿勢をT2が演示する。 ・生地を渡す前に、どのように話して渡すか、教師と練習する。
水をくむ・ねぎのりを切る・製麺する	G	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の写真を見て準備するものが分かってきており、準備しようとするが増えた。 ・製麺機に興味をもち、ハンドルを何度も回す。上手に生地が切れなかったときに、怒ったりせずやり直しを受け入れて活動することができるようになった。 ・友達が活動している様子をよく見ており、友達の言葉を聞いて行動することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達からの「どうぞ」の言葉に、発声や身振りで応えて生地を受け取る。 ・力を入れて製麺機を操作して生地を切る。③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の言葉に応えることができなかつたときは、「何と言いますか?」と問い掛ける。 ・力を入れやすい位置に製麺機を固定する。上手く生地が切れない場合は、製麺機が固定されているか確認し、励ましの言葉を掛ける。

※本時の目標の丸数字は、関連する本校の「主体的に学びに向かう姿」最終ページ参照

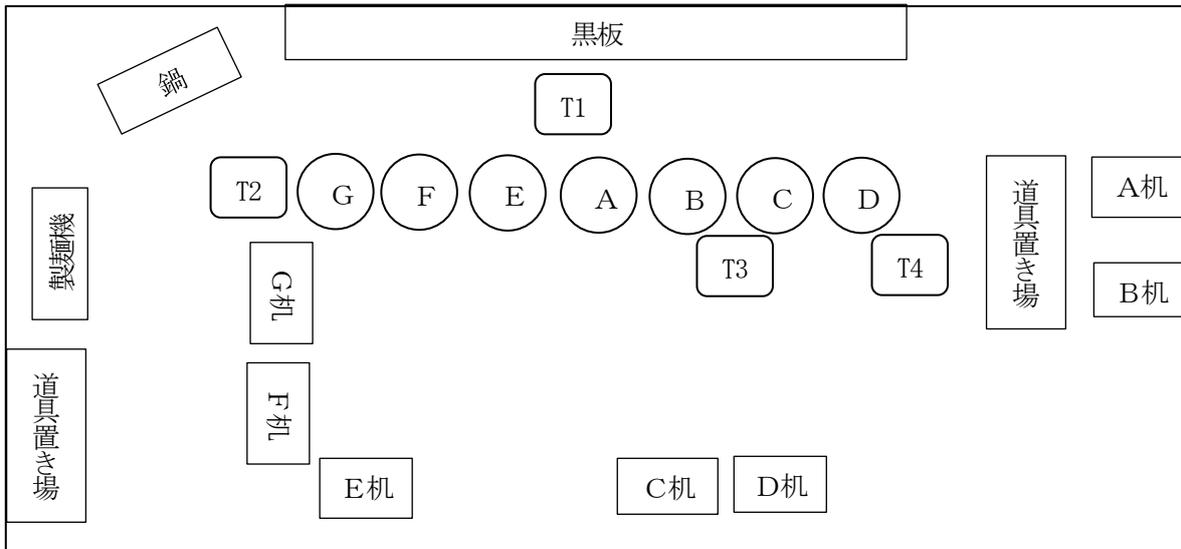
(3) 学習過程

時間	学習活動	手立て・指導上の留意点
10	<p>1 身支度をして、はじめのあいさつをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて かかりをがんばって、 おいしいうどんをつくろう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・Gの発語を補助するために、<u>タブレット端末を準備する。</u> ・<u>学習の流れや本時の活動に見通しをもてるように、学習計画や学習の流れを黒板に貼り、確認する。</u> ・本時のめあてが分かるように、全員でめあてを読んだり、「声を掛け合う」「〇回踏む／伸ばす」など各工程で頑張ることや友達とやり取りをするときの話し方を具体的に伝えたりする。
40	<p>2 うどんを作る。</p> <p>(A・B) T 1</p> <p>①うどんの生地をこねる。</p> <p>②つゆを作り、1人分に分ける。</p> <p>(C・D) T 3、T 4</p> <p>①生地をビニール袋に入れて踏む。</p> <p>②配膳用のお盆の準備をする。</p> <p>(E・F) T 2</p> <p>①鍋に水を入れる。</p> <p>②ねぎをはさみで切る。</p> <p>③生地を伸ばす。</p> <p>(G) T 2</p> <p>①鍋に水を入れる。</p> <p>②ねぎのりをはさみで切る。</p> <p>③製麺機で生地を切る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的にうどんづくりに参加することができるように、興味があったり、得意だったりする工程を分担する。 ・ペアやグループに分け、誰と言葉を掛け合いながら進めればいいのか分かりやすくする。また、交代までの回数や取り組む時間を決め、やり取りをするタイミングを分かりやすくする。 ・<u>次に誰に渡せばよいかや、何をしたらよいかの手掛かりになるように、友達の様子が見える座席配置にする。</u> ・自分で道具を準備するために、係ごとの道具置き場を決め、動線がぶつからないような配置にしたり、準備する道具の写真を見せたりする。 ・AとEが確認したいときに見ることができるように、順番表を机の中に準備する。 ・AとB、E、Fが自信をもってうどんを作り進めることができるように、できていることを具体的に言葉で伝える。 ・E・Fが鍋の水を何回運んだか分かるように、マグネットを使って回数を数える。 ・<u>Gが水を運ぶことに抵抗感を示したときは、T 2が「〇回だけやろう」と励ましの言葉を掛けたり、運ぶ水の量を調整したりする。</u> ・CとDが安全に生地を踏むことができるように、セラピーマットを敷いたり、生地を入れたビニール袋をタオルで覆ったりして、滑らないようにする。 ・Fがトレーを使って力いっぱい生地を押すことができるように、T 2が力が入る姿勢を演示したり、ペアの友達と回数をゆっくり数え、時間をかけて取り組めるようにしたりする。
5	<p>3 うどんづくりの振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工程ごとの頑張ることを達成できたか児童に問い掛けたり、「〇〇さんは、〇〇ができたね」「〇〇と言えていたね」など、同じ工程を担当したTが児童の様子を具体的に口頭で補足したりする。
20	<p>4 うどんを配膳し、食べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つゆを入れる、具材を乗せるなどの役割を分担し、みんなで一杯のうどんを完成させる意識をもてるようにする。 ・<u>Gには、食べるかをたずねる。食べないという意思表示があったときは、おかわり用ののり係を担当するよう提案する。</u>
5	<p>5 おわりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>Gの発語を補助するために、タブレット端末を準備する。</u>

(4) 配置図、座席表

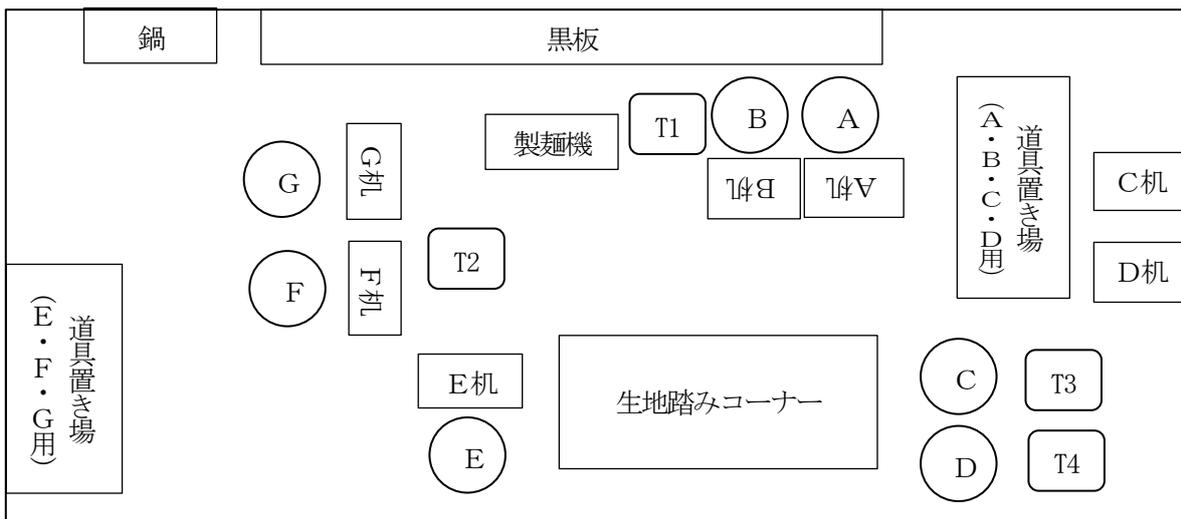
～学習活動1、3～

・小学部4・5年生教室



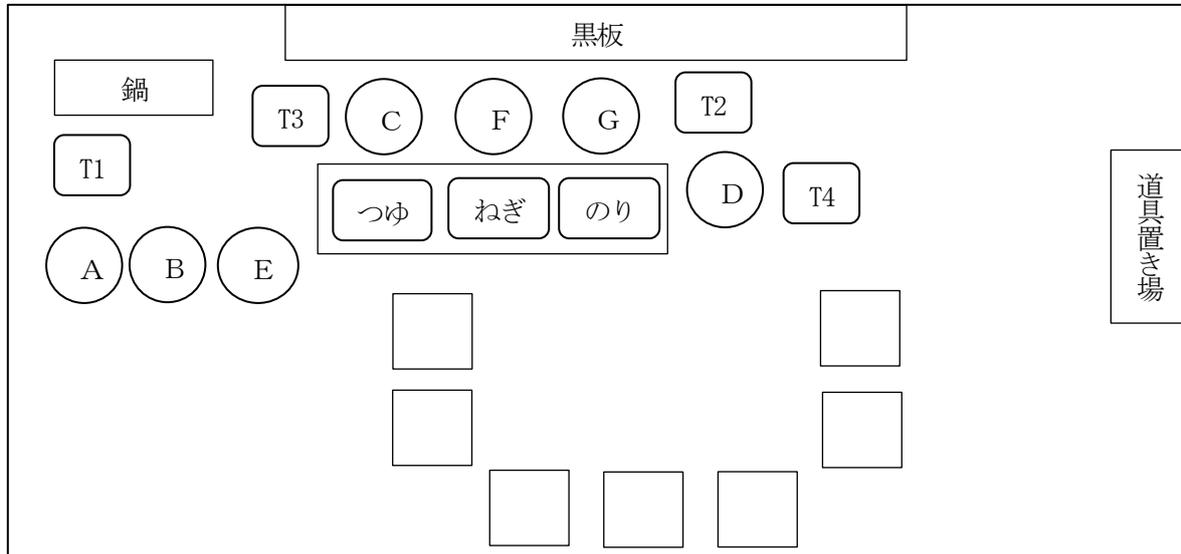
～学習活動2～

・小学部4・5年生教室



～学習活動4、5～

・小学部2・3年生教室



(5) 評価

- ・児童 順番表や友達からの言葉掛けを手掛かりに、やるべきことや必要なものが分かり、同じ活動を行う友達と身振りや言葉でやり取りをしながら活動することができたか。
- ・教師 やるべきことや必要なものが分かったり、友達とやり取りをしたりしながら活動を進めるための手立ては適切であったか。

	「主体的に学びに向かう姿」(仮)
①	学ぶこと(見ること、聞くこと、話すことなど)に前のめりになっている様子
②	自分の課題を受け入れ、目標をもって苦手なことにチャレンジしたり、得意なことを伸ばそうとしたりしている様子
③	自分の役割ややるべきことが分かって取り組んでいる様子
④	最後まで諦めず、試行錯誤しながら活動に取り組んでいる様子
⑤	学習の良かった点や改善点が分かり、次の時間に試したり、他の学習場面や生活の中で生かそうとしたりしている様子
⑥	他者と関わったりアドバイスを受け入れたりして、やってみようとする様子

※天王みどり学園 令和5年度 第1回研究全体会の職員アンケートをもとに作成